

みんなでつくる、私たちの「共同保育」

6月に入り、新しく4家族が加わり、つばさ共同保育園の子どもたちは総勢96名となり、園内はさらに賑やかさを増しています。

5月16日に開催した「親子まつり」には園児56名、大人が70名、小学生32名の方の参加があり、子どもも大人も心から楽しめる活気ある一日となりました。保護者の方と担任と一緒に準備を進める姿はまるで文化祭のよう。みんなで作業をするための日程調整や連絡の確認など、大変なこともあったかと思います。時間をかけてウンウンと悩む大人の姿があったからこそ、楽しい親子まつりに繋がったのだと思います。また、素敵な「園長紹介動画」も含め、皆さんの多才なお力に感激しました。ご協力ありがとうございました。

こうした「保護者との共同」は、クラス懇談会でもいくともに見られました。4歳児の懇談会では、担任が「子どもに手をかけすぎている所はないか？」と、批判と捉えられないか内心ドキドキしながらも、素直な思いを伝えました。そのストレートな投げかけがきっかけとなり、保育士・保護者という立場をこえて考えあうことができたのではないかと思います。懇談会の中で大切にしたい事を、保護者と「共に考える」場となりました。さらに保護者の方からは「きくちゃん（担任）、もっと頼っていいんだよ」という温かいお言葉もあって、嬉しく思っております。

一方で、私自身も5月の職員会議でこれまでの職員たちの奮闘を再確認するとともに、私自身が「園長という足取りがまだおぼつかず、みんなのペースに追いつけていない不安がある」という本音を打ち明けました。しかし、その投げかけに対しては、「そんなの当然じゃないか。みんな得手不得手がある。私たちは何を伝えればいいの？」「もっと自分の思いがあるんじゃないか？分かりにくい」といった率直な意見が返ってきました。私自身がみんなに何を考えてほしいのか？具体的な言葉がないことを逆に問われたのです。でも、その言葉を一つひとつ振り返る中で、私の中に「園長としてこうあらねばならない」「もっとできるはずだ」という、浅はかな過信が見え隠れしていたことに気づかされました。みんなの言葉に対して、どこか「こうすればいい」という小手先の手法（ハウツー）を探していたのです。これは、私自身が園長になる前から問われ続けてきた課題でもありました。トップとしての理想の姿に勝手にとらわれ、正論ばかりを投げかけていたからこそ、現場のみんなに「噛み合わない」と思わせてしまっていたのだと、改めて気づかされました。

私たちの園名にある「共同」とは、ただ仲良く並び立つことだけではありません。共に時間を過ごし、意見を突き合わせ、時には噛み合わない混乱を生じることも含めての「共同」なのだと思います。まだまだ始まったばかりの道のりですが、うまくいかないことこそ素直に打ち明け、互いの言葉に耳を傾け合いたいと考えています。そうして一人ひとりが知恵を出し合いながら、子どもたち、保護者の方と、そして職員にとっても風通しの良い保育園を作っていきたいと思っています。

日々の生活の中で、これからもそんな対話を繰り返し積み重ねていけたらと思います。

【お知らせ】 3歳児クラス担任の山本まりこ保育士が、膝の手術・療養のため6月1日より約1ヶ月間お休みをいただきます。 期間中は他の保育士が連携してクラスに入り、園全体で子どもたちの保育をしっかりとサポートしてまいりますので、どうぞご安心ください。ご心配をおかけしますが、よろしく願いいたします。